

第7回悠久会神奈川支部ハイキングの報告

神奈川支部ハイキング担当 藤原英次

日時：平成22年 7月 3日（土）

コース：小田急伊勢原駅集合 ～ 神奈中バス乗車日向薬師行き ～ 日向薬師拝観 ～ 日向山(404m) ～ 七沢温泉入浴 ～ 神奈中バス ～ 本厚木駅解散

参加者：9名

池田邦彦（電33）、水野稔夫（応37）、佐久間信義（機38）、
阿蘇幸雄（精39）、五十嵐久芳（電39）、村本進（電42）、
坂上正裕（子45）、相馬友一（子院46）、藤原英次（子53）

7月3日土曜日に、梅雨空の雲が低く立ちこめる天候でしたが、県央伊勢原の古刹日向薬師と日向山にハイキングを楽しみました。

9時15分小田急伊勢原駅に集合し、9:30発神奈川中央バス日向薬師行きにて出発。終点まで30分ほどの乗車でした。バス停を少し手前に戻って参道に入り、長年の参拝客で磨り減った石段を登ります。参道途中の堂々たる仁王門をくぐって日向薬師に到着。日向薬師は奈良時代に高僧行基が開山したと伝わる古寺で、柴折薬師（高知県）、米山薬師（新潟県）とともに日本三大薬師に数えられています。本堂はその昔の新潟の山村農家を思い出させる茅葺き屋根で、境内の杉の巨木はうっそうとしていました。

日向薬師を拝観してから、日向山のハイキングコースを登ります。少し歩を進めたところで、思わぬ小動物が私たちを迎えてくれました。山ヒルです。道を歩いてゆくとヒルは靴の裏に張り付き、もの凄い勢いで靴の側面を這い上がってくるのに気がつきました。靴下の編み目をくぐって中に入ってきて血を吸います。靴を這い上がってくるヒルをつまみ落としても後から後からやってきます。歩道のどんな所にいるのかと地面を覗くと、30cm四方に20匹くらい鎌首を持ち上げていました。

日向山山頂（標高404m）で相模平野、江ノ島を眺望しながら昼食を予定していましたが、ヒルとの格闘で景色を眺める余裕もなく、急いで七沢温泉側に下山することにしました。ところが、温泉宿に着いたら、女将が玄関先で私たちを待ち構え、ヒルを駆除しないと中に入れないと言います。靴、靴下、シャツを脱ぐと、あちこちに血を吸って丸まると太ったヒルが張り付いていました。

露天風呂で汗を流し、宿の広間で吸われた傷口を手当しながら、お疲れさま、乾杯。ヒル騒動で閉口したというよりも、大自然のワイルドな初めての体験にみんなで感心しきりで、風呂上がりのビール談義が大変盛り上がりしました。

3時半頃のバスに乗り、本厚木駅で解散。各自が自宅に着いた頃に雨が降り始めました。

なお、今回参加されませんでした。藤曲さん（機53）にヒルの情報・忠告を事前に頂いていました。対策を取っておけば良かったと反省しました。

次回は11月頃に箱根の金時山、明神ヶ岳辺りを予定しています。



日向薬師参道
(往事がしのばれる磨り減った石段)

古刹日向薬師境内



七沢温泉にて
(今日も楽しかった笑顔)



日向薬師本堂前にて記念撮影
(この後、ヒルが待ち構えているとは
つゆ知らず...)



★ハイキング報告 特別編★

丹沢山系にはハイキングコースによっては山ヒルがいます。
靴下の編み目をくぐって足首、ズボンをよじ登って腹部などで血を吸う。噛みつかれても痛みがなく、血を吸われているのが分かりません。また、血を吸われた傷口から出血がなかなか止まらず、傷跡は長く残ります。



地面や木の上で人が来るのを待ち構える



靴を這い上がる様子



被害状況

素人考えですが、対策を紹介します。

- ① 肌は露出させない。長袖、長ズボン、帽子、手袋。首周りにタオルを巻く。
- ② 靴下は編み目が細かいものをはき、ズボンの裾を靴下の中に入れる。
- ③ 靴はスニーカーでなく、ハイキングシューズ+スパッツ。
- ④ ヒルの忌避剤（登山用品店で購入可）を靴表面、裾、靴下にスプレーする。
- ⑤ 忌避剤がない場合は濃厚な塩水をスプレーする。
- ⑥ 吸い付かれたら、無理矢理剥がさず、塩をかける。